

価値創造の歴史

私たちは、1959年にファスナー製造で身につけたアルミ素材に対する知見を生かして事業を始めました。以来、時代ごとにお客様のニーズに応え、また、新しい価値を提供する商品を開発・供給し続けています。

1957-1989

建材事業を開始 大量生産で アルミサッシ普及



1959年に設置したアルミ押出機

YKK APの前身となる吉田商事は、1957年、吉田工業（現YKK）の製造したファスナーの輸出・営業部門として設立。1959年にアルミ溶解・押出の操業を開始し、YKKグループにおける建材事業がスタートしました。1966年に住宅用アルミサッシ「ハイサッシ」を発売し、高度経済成長期、住宅の大量供給が求められる中で、加工性が高く大量生産に適したアルミサッシの普及に貢献。商品展開も大きく広がっていきました。

- 1959 アルミ溶解およびアルミ押出の操業を開始
- 1961 アルミ室内建具などの生産・販売を開始
- 1962 アルミサッシの生産・販売を開始
- 1976 海外初の事業会社 YKKインダストリーズ・シンガポール社（現 YKK AP FACADEシンガポール社）を設立
- 1983 樹脂サッシの生産・販売を開始
- 1986 海外初の一貫生産工場 YKKアルミコ・インドネシア社（現 YKK APインドネシア社）を設立

1990-2004

YKK APの創業 ニーズに応える 体制へ



1990年5月の社長就任会見

1990年、吉田商事を母体に、YKKグループにおける建材事業の中核会社としてYKKアーキテクチュラルプロダクツ（略称YKK AP）を設立。初代社長の吉田忠裕（現 相談役）は大量生産・大量消費のプロダクトアウトから、多様化する消費者ニーズに応えるマーケットインへと体制を転換しました。2003年にはYKKグループにおける建材事業を完全一体化。海外での事業展開も進め、YKK APという企業の体制を構築していきました。

- 1990 「YKKアーキテクチュラルプロダクツ株式会社」に商号を変更
- 1990 ビル用システムサッシ「エクシマ」の販売を開始
- 2002 「YKK AP株式会社」に商号を変更
- 2003 YKK株式会社の建材製造事業本部を統合、YKKグループの建材事業を完全一体化
- 2003 非居住用途向けビル用システムサッシ「SYSTEMA」シリーズの販売を開始

2005-2010

サッシメーカーから 窓メーカーへ 日本の窓をより良く



2009年に発売した「APW 330」

「サッシメーカーから窓メーカーへの転換」を掲げ、ノックダウン方式のサッシ供給事業から、完成品としての「窓」を供給する窓メーカーとして舵を切りました。「日本の窓を良くしたい」という思想のもと窓事業ブランド「APW」を発表。2009年には樹脂窓「APW 330」を発売し、日本全国への普及啓発を進めました。2008年にはシンガポールにYKK AP FACADE社を設立し、ファサード事業を本格展開させました。

- 2005 住宅用窓の複層ガラス化を宣言
- 2006 窓事業ブランド「APW」シリーズの販売を開始
- 2007 「価値検証センター」を開設
- 2008 YKK AP FACADE社を設立
- 2009 樹脂窓「APW 330」の販売を開始

2011-2022

メーカーに徹する モノづくりに こだわり続ける



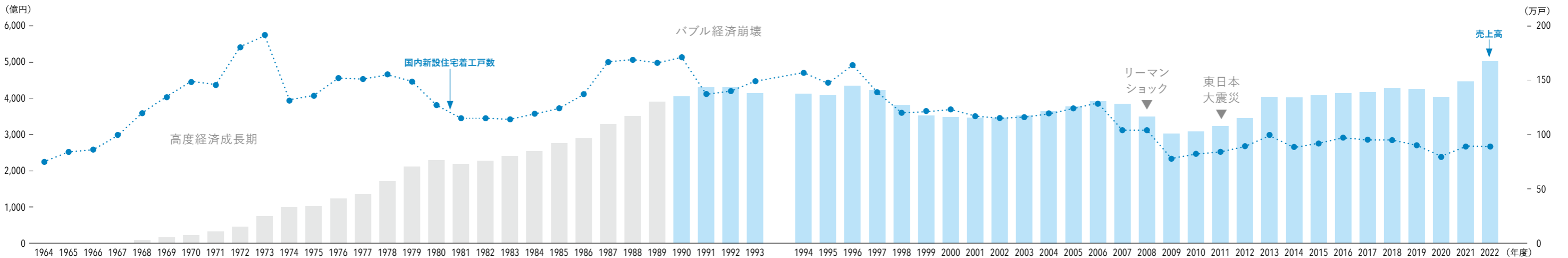
2011年に操業を開始した埼玉窓工場

2011年、二代目社長に就任した堀秀充は「メーカーに徹する」という方針のもと、モノづくりにこだわり続けることを示しました。窓の専用工場「窓工場」や樹脂窓の普及啓発活動により窓事業をさらに推進、エクステリアやリフォーム商品の拡充、ビル事業のエンジニアリング力強化を図り、市場シェアを拡大していきました。また、2020年度の海外関係会社再編など、大きく変化する社会に対応する体制を構築しました。

- 2011 埼玉窓工場の操業を開始
- 2012 スマートドア「ヴェナート」の販売を開始
- 2014 エクステリア商品シリーズ「ルシアス」の販売を開始
- 2016 「YKK AP R&Dセンター」を開設
- 2020 海外AP事業を再編し、海外関係会社の資本関係と事業運営をYKK APに一元化
- 2021 YKK工機技術本部の部門を一部移管し、「工機技術部」を設置

2023- Architectural Productsの進化で、 世界のリーディングカンパニーへ

2023年、社長に就任した魚津彰は“2030年にありたい姿、あるべき姿”を検討し、ビジョン「Evolution 2030」として、「Architectural Productsの進化で、世界のリーディングカンパニーへ」を掲げました。



価値創造プロセス

パーパス → P5

Architectural Productsで
社会を幸せにする会社。

Architectural Productsで
社会を幸せにする会社。
— We Build a Better Society Through Architectural Products —

ビジョン

Evolution 2030 → P7

Architectural Productsの進化で、
世界のリーディングカンパニーへ

機会とリスク

- 健康・快適 / 安全・安心
- 気候変動・災害対策
- 人口動態
- 生態系保全・資源循環



マテリアリティ → P20

持続的成長を支える「人材」

- ダイバーシティ&インクルージョン
- 働きがいのある職場環境の整備
- 新たな価値を創出する人材の開発・育成
- 人権の尊重

商品による社会課題解決と
競争力の源泉となる「モノづくり」

- ステークホルダーとの共創
- イノベーションの創出
- 社会課題を解決し続ける商品・サービス

社会的責任を果たすための
「信用・信頼」

- 公正な事業活動
- レジリエントな経営基盤
- 環境との共生

経営資本

→ P16-17



財務資本



人的資本



製造資本



社会・関係資本



自然資本



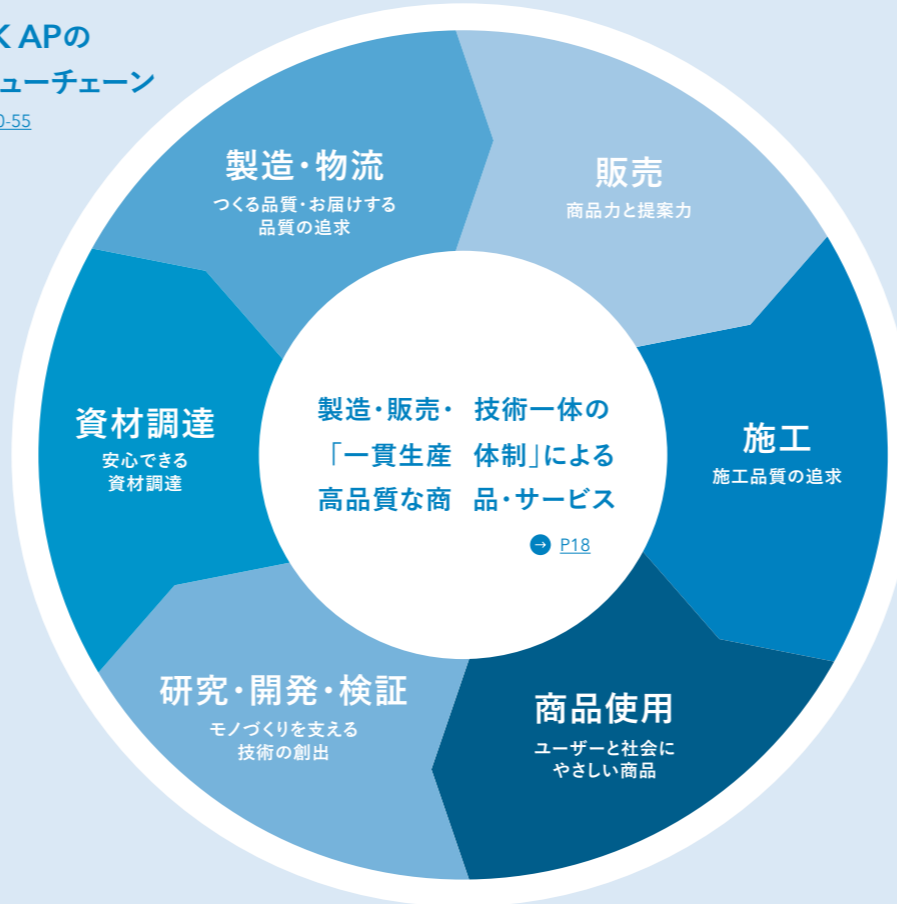
知的資本

第6次中期事業方針

「商品による社会価値の提供と モノづくり改革の実現」 → P21-23

YKK APの バリューチェーン

→ P50-55



YKK APの事業セグメント

住宅事業 ビル事業 エクステリア事業 産業製品事業 海外AP事業 → P42-49

事業を支える基盤

コーポレートガバナンス 人権と人材 コンプライアンス リスクマネジメント 環境経営 DXの推進 → P24-41

アウトカム

[顧客] 高断熱化・高付加価値化を基軸とした、安全・安心・省エネ・健康・省施工・防災・換気など社会の要請に応える商品・ソリューションサービス

[社会] お取引先や地域とともに利益を生み出しながら、バリューチェーン全体での脱炭素化・循環型社会実現などの環境課題解決に向けた仕組みづくり

[社員] 働きやすい職場環境の実現、社員への投資、成長機会の提供を通して、多様なスキルと経験を持つ社員一人ひとりが成長し、働きがいを持つとともに、雇用を生み出す経営によって多様な人材に選ばれる会社



アウトプット

売上高	5,086億円
営業利益	178億円
サステナブル商品売上比率	37.8%
サステナビリティ関連投資(国内)	29億円
温室効果ガス排出量(スコープ1、2)	304千t-CO ₂
温室効果ガス排出量(スコープ3)	1,737千t-CO ₂
アルミ 社外品リサイクル(国内) ^{※1}	27%
樹脂 社内品リサイクル(国内) ^{※2}	28%
従業員エンゲージメント(国内)	49%

※1 アルミ原材料投入における市中リサイクル材の投入比率
※2 樹脂社内発生端材の社内での再利用率

※特段の注のないものは2023年3月末時点もしくは2022年度実績、対象範囲はYKK APグループ(国内+海外)

価値創造プロセスを支える理念 → P4-5

YKK精神 「善の巡環」他人の利益を固らずして自らの繁栄はない



経営理念 更なるCORPORATE VALUEを求めて



価値創造のベースとなる経営資本

「Architectural Productsで社会を幸せにする会社。」をパーパスに掲げるYKK AP。高品質な商品・サービスを生み出す企業活動を通して、顧客・社会・社員に価値を提供する、このサイクルの源泉となるのが6つの資本です。事業機会やリスクを見極めながら戦略的な資本投下を行い、持続的な成長を目指します。

財務資本 Financial Capital



自己資本比率 **57.9%**
純資産額 2,660 億円 / 総資産額 4,558 億円

事業活動を支える財務基盤

2022年度の営業利益は全体では増益となったものの、資材価格高騰などに対応するため、引き続き価格改定や製造コストダウンなどにより、収益の改善を図っています。売上高1兆円規模を目指すビジョン「Evolution 2030」の実現に向けて、まずは企業活動のベースとなる情報インフラ等の管理基盤、次に設備・人材へ経営資源の配分を計画しています。経営指標や各事業の成長率を意識しながら、資本効率の追求も進めています。

→ [パーパス P5](#)

→ [Evolution 2030 P7](#)

→ [財務担当役員メッセージ P11](#)

人的資本 Human Capital



国内従業員 **12,802** 名
海外従業員 **4,341** 名

企業理念を共有した「森林集団」

「自律と共生」の考えをもとに、社員一人ひとりが十分に力を発揮できる制度や環境づくりを進めています。目指す姿は、一本一本の木が独立しながら森林を形成するように、一人ひとりが「経営者」という意識を持ち、全員が手を携えて一緒に大きく育つ「森林集団」です。価値創造の源泉となる従業員のエンゲージメント向上に向けて、多様な人材が活躍するための制度設計や環境整備を進め、「働きやすさ」「働きがい」のある職場環境を実現していきます。

→ [人材戦略 P31-32](#)

社会・関係資本 Social and Relational Capital



国内拠点 **195** 拠点
海外拠点 **11** カ国 / 地域
関係会社 国内5社 海外17社 (2023年8月1日時点)

ステークホルダーとの信用・信頼をベースにした共創関係

地域に信頼され、社会に愛される会社であり続けるために、社員をはじめ、お客様、お取引先、地域社会などあらゆるステークホルダーの皆様と共創しています。さまざまな形で対話・共創の場を設け、職場・業務の改善や商品の品質向上に取り組んでいます。産官学民連携による、樹脂やアルミ素材のリサイクル技術開発や仕組みづくりにも取り組んでいます。

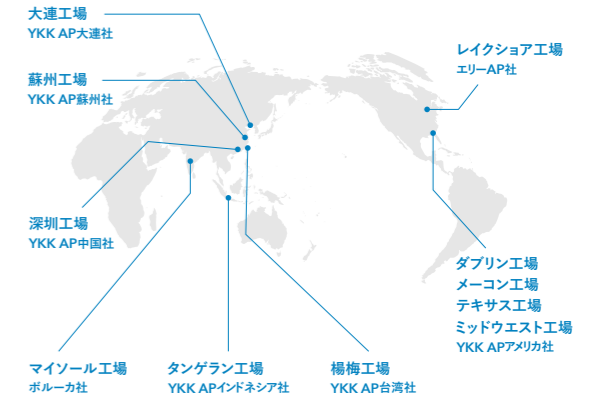
→ [ステークホルダーコミュニケーションはウェブサイトでご紹介しています。 https://www.ykkap.co.jp/company/jp/sustainability/stakeholder/](https://www.ykkap.co.jp/company/jp/sustainability/stakeholder/)

→ [樹脂やアルミ素材のリサイクル P38-40](#)

国内製造拠点



海外製造拠点



製造資本 Manufacturing Capital



製造拠点 国内 **24** 拠点 海外 **11** 拠点
製造設備投資 **138** 億円

→ [一貫生産体制 P18](#)

→ [スマートファクトリー P41](#)

自然資本 Natural Capital



エネルギー消費 **161** 千kl (原油換算)
水使用量: 8.9 百万m³
原材料: アルミ 125千t、樹脂 22千t

→ [環境経営 P36-40](#)

→ [Evolution 2030 P7](#)

知的資本 Intellectual Capital



グローバル R&D 体制 **3** 拠点
研究開発費 **93** 億円
特許権所有件数 1,418 件

→ [研究・開発・検証 P50](#)

原材料生産から出荷配送までの一貫生産体制を支える技術力

YKK APは国内外の拠点で一貫生産によるモノづくりを行っており、需要地の近くで製造するという基本的な考えのもと、各国/地域に根差した製造供給体制を構築しています。さらに商品の生産設備を開発・製造する工機技術により技術競争力を高めています。またスマートファクトリーの実現に向けたAIやロボット技術などの研究・開発やDX推進も加速させています。

ライフサイクルの全ての段階で環境価値を創出

次世代に対してより良い社会・環境をつくるために、技術革新による新しい価値の創造、環境負荷ゼロに挑戦しています。自然資本の保全や有効活用とともに、研究開発から製造、物流、施工や商品使用、廃棄のライフサイクル全ての段階で環境価値の創出と環境課題の解決に取り組んでいます。ビジョン「Evolution 2030」では自社CO₂排出量を2030年度までに80%削減、2040年度までに100%削減(いずれも2013年度比)を掲げており、取り組みを強化していきます。

社会課題解決への挑戦を通した技術の創出 技術の総本山としての黒部

「技術の総本山」と位置付ける富山県黒部市には「YKK AP R&Dセンター」「価値検証センター」「パートナーズサポートスタジオ」の3つの技術施設を、またドイツ、インドネシアにもR&Dセンターを置き、グローバルでの研究・開発・検証を行っています。さらに、知的資産に関する戦略的な管理・活用と従業員への教育・育成に注力し、特許出願や特許権所有により、競争力とブランド価値の向上を目指しています。

※特段の注のないものは2023年3月末時点もしくは2022年度実績、対象範囲はYKK APグループ(国内+海外)

モノづくりの強みと商品を通じた社会課題解決

YKK APは「一貫生産体制」をベースにした高品質な商品・サービスにより、顧客・社会・社員に価値を提供し続けるとともに社会・環境課題に積極的に取り組んでいます。

一貫生産体制

YKK APの強みは、素材や部品、生産設備から加工や組立に至るまでを自社で担う「一貫生産体制」のビジネスモデルです。

樹脂窓など主力商品に使われるガラスは素板の状態です。樹脂窓など主力商品に使われるガラスは素板の状態です。樹脂窓など主力商品に使われるガラスは素板の状態です。

商品の要ともいえる部品の開発・製造も自社内で行っています。要素技術を含めた技術開発力をベースに、戸車、ねじ、網戸のネットなど、金属製・樹脂製の機能部品を生産。各種試験評価機能も有し、品質をより確かなものにしていきます。

さらに、商品を生産する設備の開発・製造についても、工機技術部と呼ばれる自社の部門が担っています。工機技術部と開発・製造部門がシームレスかつ迅速に連携することで、技術競争力の一層の強化を図っています。

第6次中期事業方針における「モノづくり改革の実現」の一環として、スマートファクトリー化も推進。AIなどのデジタル技術やロボタイゼーションを駆使し、人に頼らない都市型の新しい無人化ラインの構築を進めています。

一貫生産にこだわるからこそ、スピーディーな技術開発、サプライチェーン全体におけるコスト調整、確かな品質保証が可能になると考えています。

YKK APのモノづくりの根幹「一貫生産体制」

<p>素材</p> <p>アルミは地金溶解から押出成形、表面処理まで、樹脂は原材料配合から押出成形まで自社で行っています。</p>	<p>高性能ガラス</p> <p>自社で高性能・高機能な複層ガラス・トリプルガラスに加工しています。</p>
<p>部品</p> <p>操作部品、機能部品、ねじや網戸のネットに至るまで自社で生産しています。</p>	<p>生産設備</p> <p>製造設備、製造ライン、工程管理システムなどを自社で開発し、国内外の自社工場に導入しています。</p>



加工・組立・包装 「APW」樹脂窓シリーズは管理された自社工場、ガラスや部品を含めた窓として組み立てまで行うことで、高い性能を担保しています。

- [第6次中期事業方針 P21](#)
- [一貫生産体制 P52](#)
- [サステナブル商品売上比率 P22-23](#)
- [DXの推進 P41](#)

社会課題に対応する商品・サービス

YKK APはサステナビリティ経営を進める中で、国内外のさまざまな顧客のニーズに寄り添いながら課題の抽出や技術開発を行っています。第6次中期事業方針に「商品による社会価値の提供とモノづくり改革の実現」を掲げ、重要指標として「サステナブル商

品売上比率」を設定しています。YKK APが提供する社会価値の項目を「省エネ」「省施工」「防災・減災」「安全・安心」「健康・衛生」とし、それらの価値を高める「サステナブル商品」を幅広く展開し、持続可能な社会に資する事業活動に取り組んでいます。

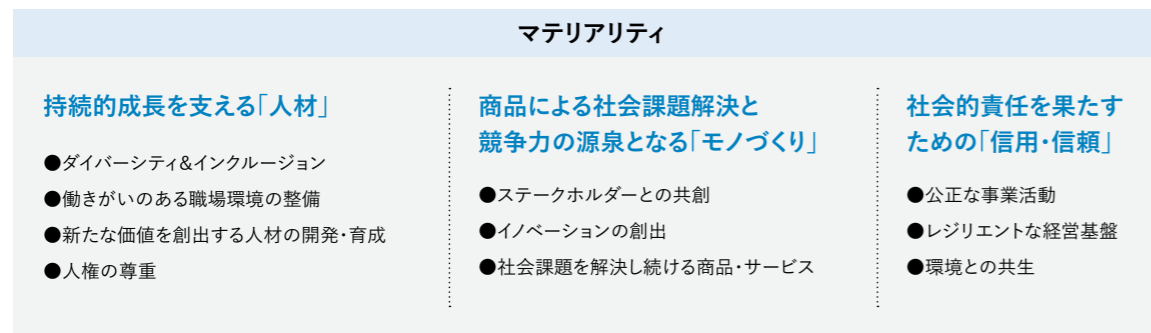
<p>省エネ</p> <p>建築の省エネルギー性の向上に寄与できる商品の開発を進めています。国内外において各地域で定められた省エネ基準をクリアする断熱性能を有する商品を展開しています。</p> <div style="display: flex;"> <div data-bbox="1780 724 2018 955"> <p>「APW」樹脂窓シリーズ フレームに断熱性能の高い樹脂を使用した、高断熱の樹脂窓シリーズ</p> </div> <div data-bbox="2033 724 2270 955"> <p>LDシリーズ(中国) 華東から華北、西部まで幅広いエリアに対応でき、高い断熱性を持つアルミ形材断熱窓シリーズ</p> </div> </div>	<p>省施工</p> <p>施工時間の短縮化、特定の力量・危険を要せず安全性に配慮した施工となる商品を展開しています。</p> <div style="display: flex;"> <div data-bbox="2306 724 2552 955"> <p>非溶接工法 モルタルを充填する施工で、従来の溶接工法に代わる火気を使用しない新しいサッシ施工の工法</p> </div> <div data-bbox="2567 724 2819 955"> <p>「かんたんドアモ」シリーズ 壁を壊さずに今ある枠の上から、新しい商品の取り付け可能なドアシリーズ</p> </div> </div>
<p>防災・減災</p> <p>風・雨(水)・雪・雷などの自然による建物・室内環境・周辺環境の被害を低減する商品をラインアップしています。</p> <div style="display: flex;"> <div data-bbox="2033 1127 2270 1358"> <p>「ジーポート Pro」シリーズ 業界トップクラスの耐積雪、耐風性能を持ち、激甚化する自然災害に備えるカーポートシリーズ</p> </div> <div data-bbox="2306 1127 2552 1358"> <p>YRB-A(台湾) 台風被害の多い台湾で基幹商品として展開する高水密サッシ</p> </div> <div data-bbox="2567 1127 2819 1358"> <p>ProTek®(米国) 米国において主に商業施設向けに展開するハリケーン・防塵対応商品</p> </div> </div>	
<p>安全・安心</p> <p>脱落・転落・挟まれ・衝突・切創・引っ掛かり・閉じ込め・発火・防犯等に対して、有効に働く機能や技術を用い、より高い安全性を有する商品の開発に注力しています。</p> <div style="display: flex;"> <div data-bbox="2033 1533 2270 1764"> <p>ルシアス バルコニー 子どもの転落防止に配慮した手すりを有するバルコニー</p> </div> <div data-bbox="2567 1533 2819 1764"> <p>自然換気窓(バランスウェイ) 障子自体がバランスを取り、効率の良い換気が行える商品</p> </div> </div>	<p>健康・衛生</p> <p>室内環境の質の向上や衛生的な暮らしづくりに寄与する商品を展開しています。</p>

マテリアリティと第6次中期経営計画

持続的な成長を牽引するため、パーパスをベースにマテリアリティ(重要課題)を特定しています。第6次中期経営計画(2021~2024年度)の実践を通してマテリアリティを推進していきます。

マテリアリティ

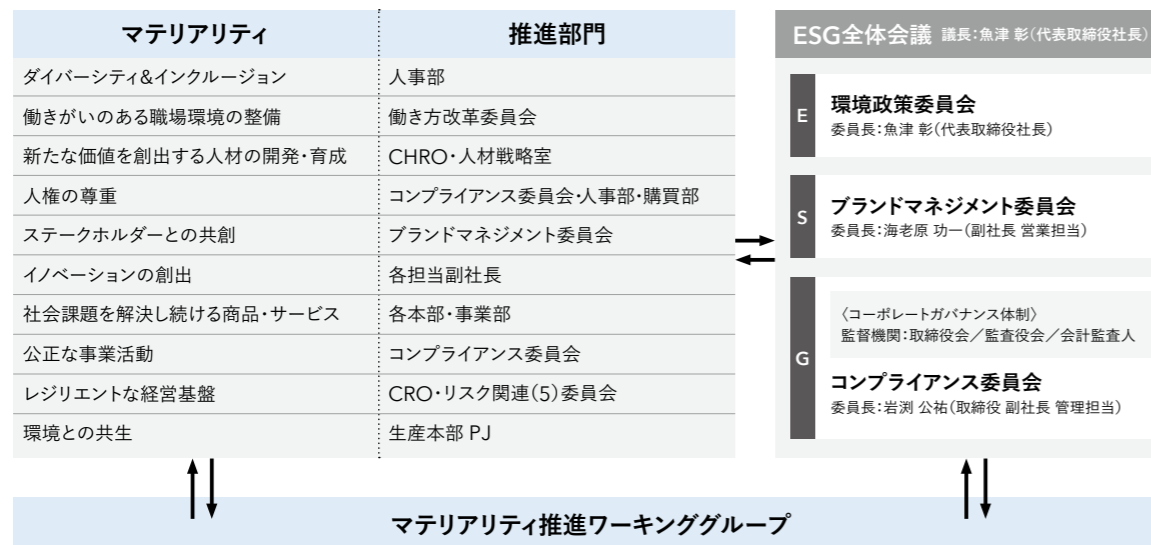
当社の持続的な成長を牽引するために、2021年度、パーパスをベースにマテリアリティ(重要課題)を特定しました。マテリアリティ推進のための体制を整え、さらにKPIを設定して具体的な取り組みを進めています。



マテリアリティの推進体制

当社では、各マテリアリティに推進部門を設け、取り組みを強化しています。さらに社長をトップとするESG全体会議は、環境(Environment)をテーマとする環境政策委員会、社会(Social)をテーマとするブランドマネジメント委員会、ガバナンス(Governance)を

テーマとするコンプライアンス委員会で開催されており、それぞれ社長・副社長が委員長を務める当社の主要な委員会組織です。ESG全体会議の直轄組織である「マテリアリティ推進ワーキンググループ」では、ESG全体会議および各マテリアリティ推進部門と連携しながら、マテリアリティ推進とKPI管理を行っています。



マテリアリティの特定の考え方や特定プロセスはウェブサイトでご紹介しています。
<https://www.ykkap.co.jp/company/jp/sustainability/materiality/#process>

第6次中期経営計画

YKKグループ第6次中期経営ビジョン

Technology Oriented Value Creation 『技術に裏付けられた価値創造』

●持続可能な社会の実現に向けた創造力——商品力と提案力/技術力と製造力/多様な人財

第6次中期事業方針

商品による社会価値の提供とモノづくり改革の実現

- 商品による社会価値の提供——安全・安心・省エネ・健康・省施工・防災・換気など、社会の要請に応える商品を提供
- モノづくり改革の実現——技術力強化(工機融合)、プラットフォーム化・スマートファクトリー化によるモノづくり改革/カーボンニュートラルに向けての技術開発

第6次中期事業計画

2021年度から始まった第6次中期経営計画では、パーパス「Architectural Productsで社会を幸せにする会社。」を根幹に、これを実現するための方針として第6次中期事業方針「商品による社会価値の提供とモノづくり改革の実現」を策定しています。

2022年度は、国内では窓の高断熱化推進やビル

単位: 億円

	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (計画)	2024年度 (計画)
売上高	4,463	5,086	5,479	5,440
営業利益	173	178	276	386
営業利益率	3.9%	3.5%	5.0%	7.1%

※2024年度計画は2021年度策定の中期計画

- パーパス P5
- 3省連携補助事業 P43_45
- 埼玉工場 新建屋 P45
- 住宅用樹脂窓新工場(米国) P49
- 財務担当役員メッセージ P11
- 住宅用樹脂窓新工場(米国) P49

第6次中期投資計画

国内外での事業のさらなる成長に向けて、第6次中期経営計画では過去最高となる投資計画を立案し

単位: 億円

	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (計画)	2024年度 (計画)
国内	226	201	378	300
海外	37	135	125	92
合計	264	337	503	392

※発注ベース
 ※2024年度計画は2021年度策定の中期計画

改装分野の提案強化、海外では北米のビル建材を中心に国内外ともに大きく伸長し、売上高は5,086億円と2年連続で過去最高を更新しました。営業利益は、国内では資材価格の高騰や販管費の増加の影響を受けましたが、海外での販売増加や価格改定により、全体では増益となりました。

2023年度は、国内は3省連携補助事業によって需要の高まりが見込まれる、リフォーム商品やガラスの生産設備を増強します。また、ビル事業では、埼玉工場新建屋での操業開始により首都圏でのさらなる競争力強化を図ります。北米ではビル建材供給拠点整備や住宅用樹脂窓の新工場稼働による、製造供給体制の強化に取り組みます。

ています。設備投資計画は、老朽入替、安全衛生など事業継続に必要な投資に加えて、リターンによる投資合理性が見込める増産や合理化投資を積極的に行っていく予定です。

2023年度は、事業の持続的成長と投資効果の早期創出を目的に、国内では増産・新商品対応やデジタル関連、海外では米国の新工場建設を中心に、過去最高となる503億円の投資を計画しています。

第6次中期におけるマテリアリティの目標

対象範囲
 ◇1:YKK AP単体
 ◇2:YKK APグループ(国内)
 ◇3:YKK APグループ(国内+海外)

マテリアリティ	取り組み	指標	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (目標)	2024年度 (目標)	関連するSDGs		
持続的成長を支える「人材」	ダイバーシティ&インクルージョン	多様なスキルと経験を持つ社員が、互いに尊重・共働し、インクルーシブな企業文化の醸成を推進する	女性管理職人数 ◇1	113名	122名	133名	140名		
		障がい者雇用率 ◇1	2.29%	2.32%	2.35%	2.50%			
		男女賃金比(平均値) ◇1 ※かっこ内は課長職の男女賃金比	68.6% (86.4%)	69.7% (87.7%)	70.0%	71.0%			
	働きがいのある職場環境の整備	一人ひとりが成長し働きがいを持って活躍し、最高のパフォーマンスを発揮できる職場環境を整備する	育児休業取得率(男性) ◇1	53.2%	73.2%	50%以上	50%以上		
			従業員エンゲージメント ◇1	51%	49%	65%	70%		
	新たな価値を創出する人材の開発・育成	持続可能な成長に向け、次世代リーダーの確保・育成・登用および必要な人材への投資を行う	公的資格奨励金対象資格取得者数(延べ人数) ◇1	15,714名	17,083名	18,500名	20,000名		
			次世代リーダー育成プログラム「価値創造塾」 ◇1 ●参加者数 ※かっこ内は累計参加者数 ●役員登用数(累計)	9名(195名) 29名	9名(204名) 32名	9名(213名) -	9名(222名) -		
			会社派遣での学位取得者数 ◇1 (博士号・MBA・MOT)	13名	17名	24名	27名		
	人権の尊重	企業の社会的責任として、自社のみならず自社をとりまくサプライチェーン等の人権に配慮する	各国/地域の事業活動におけるYKK AP人権方針の徹底 人権・ハラスメント研修内容の拡充・充実	取引基本原則締結社数(累計) ◇1	821社	1,184社	1,184社	1,184社	
			重要サプライヤーを対象としたCSRアンケート実施社数(累計) ◇1	48社	1,184社	1,184社	1,184社		
	商品による社会課題解決と競争力の源泉となる「モノづくり」	ステークホルダーとの共創	重要なステークホルダーである顧客・社会・社員との積極的な対話を通し、価値を創造し続ける	顧客:国内・海外のお取引先を対象とした技術提案・研修メニューの拡大 社会:お客様の声を商品やサービスの開発・改善や情報提供につなげる活動の推進 社員:社員のアイデアを広く収集し事業に活かす取り組みの推進					
		イノベーションの創出	持続可能な成長に向け、中長期的な視点での事業の構想や生産・業務プロセスにおけるイノベーションを促進する	イノベーション人材の育成・創出プログラムの構築 ●新規事業創出を加速推進するAPイノベーションプログラムの構築・制度づくり ●革新的な組織風土の醸成とイノベーション人材育成に向けた基盤整備					
社会課題を解決し続ける商品・サービス		商品・サービスによる社会課題解決への挑戦を通して、新たな価値を創造し、社会の持続的な発展に貢献する	高断熱窓化率(戸建住宅向け) ◇2	70%	75%	84%	90%		
樹脂窓化率(戸建住宅向け) ◇2	31%	31%	35%	40%					
サステナブル商品売上比率 ◇3	38.4%	37.8%	40.6%	39.1%					
社会的責任を果たすための「信用・信頼」	公正な事業活動	グローバルガバナンス体制のもと、法令や社会規範の遵守を徹底し、倫理的で誠実な事業活動を行う	YKKグローバルコンプライアンス基準(YGCC)導入拠点数 ◇3 ※かっこ内は内部監査実施拠点数	55拠点 (20拠点)	56拠点 (27拠点)	57拠点 (27拠点)	57拠点 (28拠点)		
	レジリエントな経営基盤	不測の事態への対応の他、経営の透明性を高め、誠実で公正な企業統治を行うリスクマネジメントによりレジリエンスを高める	CRO主導によるリスク管理体制の強化と有事における対応の迅速化 オールハザードベースでのBCPの見直し ●感染症、大規模自然災害、サプライチェーンの遮断、サイバー事故等に対応 ●BCP発動後の確実な運用による復旧と操業						
環境との共生	脱炭素・循環型社会の促進、環境配慮商品の拡販など、環境負荷低減と気候変動の緩和と適応に貢献する	自社内CO ₂ 排出量 ◇3	325千t-CO ₂	304千t-CO ₂	288千t-CO ₂	275千t-CO ₂			
		廃棄物排出量(製造拠点) ◇3 ※かっこ内は原単位	15.9千t (3.57t/億円)	15.4千t (3.03t/億円)	14.3千t (2.61t/億円)	13.9千t (2.56t/億円)			
		水使用量(製造拠点) ◇3 ※かっこ内は原単位	9.8百万m ³ (2.20千m ³ /億円)	8.9百万m ³ (1.75千m ³ /億円)	8.6百万m ³ (1.58千m ³ /億円)	8.5百万m ³ (1.57千m ³ /億円)			

※サステナブル商品・・・省エネ、省施工、防災・減災、安全・安心、健康・衛生など社会の重要課題を解決し、SDGs達成に貢献する建築パーツをサステナブル商品と定義しています。
 ※2024年度目標は2021年度策定の中期目標です。